

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【公開番号】特開2014-208464(P2014-208464A)

【公開日】平成26年11月6日(2014.11.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-061

【出願番号】特願2014-61168(P2014-61168)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/02 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

H 0 1 B 3/30 (2006.01)

B 3 2 B 7/02 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/02 A

B 3 2 B 27/00 A

H 0 1 B 3/30 Q

B 3 2 B 7/02 1 0 5

H 0 1 B 3/30 J

【手続補正書】

【提出日】平成29年2月1日(2017.2.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が10J/g以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、ポリフェニレンサルファイド纖維を含み且つ示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が10J/g以上の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

【特許文献1】特開昭55-35459号公報

【特許文献2】特開昭63-237949号公報

【特許文献3】特開平8-197690号公報

【特許文献4】特開2012-245728号公報

【特許文献5】特開平4-228696号公報

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

かかる課題を解決すべく鋭意検討の結果、示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量

が 10 J / g 以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、ポリフェニレンサルファイド繊維を含み且つ示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が 10 J / g 以上の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体が、前記の課題を解決できることを見出した。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

以下に、本発明の実施の形態を説明するが、本発明は下記実施形態に限定されるものでないことは言うまでもない。

すなわち、本発明は示差走査熱量計 (DSC) を用いて測定した結晶化熱量が 10 J / g 以上の熱可塑性樹脂シート層の少なくとも一方の面に、示差走査熱量計を用いて測定した結晶化熱量が 10 J / g 以上のポリフェニレンサルファイド繊維の湿式不織布層が、接着剤を介さずに積層されている積層体からなる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

得られたPPS樹脂組成物を 180 °C で 2 時間、減圧下で乾燥した後、平均粒径 0.1 μm のシリカ微粉末を 0.5 質量 % 混合し、310 °C の温度でガット状に溶融押出して、さらに該ガットをチップ状に切断した。該チップを減圧下で 180 °C の温度で 3 時間乾燥した後、エクストルダーのホッパに投入し、320 °C で溶融し、T型口金からシート状に押出し、表面温度 30 °C に保った金属ドラム上で冷却固化して厚さ 50 μm の未延伸 PPS フィルムを得た。